

あおもり漁連

代表理事会長 植村正治 書

資源有限漁業無限

No.

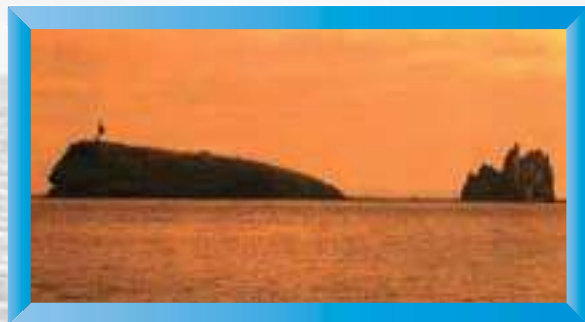
137



タラ底建網「場取り」(脇野沢村沖)

CONTENTS

県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ	1
全国系統団体 新年ごあいさつ	7
第13回活力と魅力溢れる漁村づくり青森県大会	
「JF漁協改革推進大会」	11
平成16年度漁協運動功労者表彰式	12
ロシア船籍貨物船によるほたて養殖施設漁業被害	13
青森県内漁協合併推進状況	14
第32回「海をきれいにする運動」応募作品審査発表	16
浜の情報・話題	18
全国漁業協同組合学校生徒募集	18
作業用救命衣の紹介(NS-ウクンダA8・A9型)	18
主な水産に関する動き(10~12月)	19
県内漁協紹介(脇野沢村漁協)	20



脇野沢村沖約1kmに浮かぶ鯛島

2005 1

21世紀は漁村の時代

平成17年

県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

植村 正 治

新年あけましておめでとうございます。平成十七年の新春を迎え県内漁業者の皆様、そして常日頃漁協の業務運営に奮闘されておられます役職員の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

又、昨年の度重なる台風の襲来により、漁船や漁業施設等で多大な損害を被られました漁業者並びに漁協の皆様には遅ればせながら心からお見舞申し上げます。

さて、最近における漁業を取り巻く情勢をみますと、周辺水域の資源量の減少に加え輸入水産物の増大に伴う魚価安、消費の低迷、漁村地域の活力の低下等により漁業をはじめ漁家経営は、恒常的な極めて厳しい状況に直面しております。

このような状況の中、更に輸入水産物が増加すれば我が国漁業・水産業が崩壊の危機に陥るとして、昨年七月二十三日に三〇〇人を超える全国の漁業代表者が東京に結集し、WTO・FTA対策緊急全国漁業代表者集会が開催され、水産物関税撤廃等、関税の一律削減には断固反対との決議が採択されました。

青森県は太平洋・日本海・津軽海峡、更にむつ湾とそれぞれ違った生産能力を持つ豊かな海に囲まれ、恵まれた環境にあります。その中でも三沢沖を含む太平洋海域は全国有数の良好なするめいかの漁場が形成されるところで、県内外からいか釣船のほか巻網船や底曳船も集まる海域となっておりますが、そのため度々操業トラブルや事故も発生しております。昨年九月に

は小型いか釣船に底曳船が衝突する事故が二件つづけて発生し、乗組員は無事救助され双方に怪我はなかったものの、小型いか釣漁船は甚大な被害を被っております。予想された事故として猛省を促すものであります。

県漁連としても事態を重く受け止め、二度とこのような事故が起きないよう、十月十一日には三沢漁港において県内外の沿岸漁業者六〇〇人の参加をいただき、小型いか釣りの安全操業を確保する青森県漁業者大会を開催し、「いか釣漁業の安全確保」「いか漁場のすみ分け」「大臣許可漁業の見直し」等を求めて行くことを決議したところであります。

「二十一世紀は漁村の時代」を提唱し、漁業・水産業が国民食糧として、安全・安心で良質な水産物を将来に亘り安定的に供給していくためには、地方自治体と関係団体が密接な連携を取りながら秩序ある操業体制を構築する、又、漁業者が水産資源の適切な管理保存を持続的に行う等、関係者一丸となって資源の回復に努めて

いかなければなりません。

又、水産基本法にも唱われているとおり、漁業・漁村は水産物の供給はもとより、環境の保全、地域文化の継承、国民レクリエーションの場の提供、海難救助等、多面的機能を有しており、漁協はその中核として地方の時代を支えていかなければなりません。

そして、全体の核として活力と魅力あふれる

漁村を構築して行かなければならず、そのためには漁協経営の健全化を図ることが重要であります。昨年十一月一日、県下漁業者六五〇人に青森市にご参集いただき、「活力と魅力あふれる漁村づくり青森県大会」を開催し、自立漁協への合併の実現に向け、将来に亘り安定した経営基盤を築いて行くとの意志を確認しております。

問題は山積しておりますが、皆さんと共に資源有限・漁業無限をモットーに、二十一世紀が真に漁村の時代となりますよう、持続可能な漁業の確立、自立漁協の構築、そして豊かで住み良い漁村づくりに邁進しようではありませんか。終わりに、皆様の今年一年のご健勝とご繁栄並びに海上安全を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。



青森県農林水産部

部

長 一 戸 洋 次

新年あけましておめでとうございます。

日頃、本県水産業の発展に御尽力をいただいております皆様にご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の本県水産業を振り返りますと、春先には日本海の深浦町などでサクラマス、夏から秋には津軽海峡の大間町などでマグロの漁獲が好調に推移し、太平洋の八戸市などではスルメイカが前年以上に漁獲されました。また、多くのサケが本県沿岸に来遊し、太平洋、日本海ともに漁獲量が前年を大幅に上回りました。

年末には日本海沿岸に多くのハタハタが接岸し、三年連続の豊漁が期待されるなど、四季を通じて明るい兆しが見えました。

ホタテガイ漁業については、一昨年の大量へい死による影響が懸念されていたものの、昨年は順調に推移し漁獲が回復したことに加え、価格も上向き、漁獲金額が四年ぶりに百億円を突破しました。

また、十一月には東京都内の明治神宮会館で開催された「第四十三回農林水産祭」において、川内町漁協青年部によるナマコの資源管理への

取り組みが、農林水産業者の最高の荣誉である天皇杯を受賞し、「水産県青森」を全国にアピールできた年でもありました。

反面、夏から秋にかけて前例がないほど多くの台風や低気圧により、漁船や荷さばき所などの施設のほか、定置網・底建網漁業やホタテガイ養殖等に大きな被害が発生しました。このため、県では関係機関との連携を図りながら、現地の被害状況を把握するとともに、天災融資法の発動に伴う天災資金への利子補給などの対策を進めてきたところです。

本県の水産業は、これまで、第一線で精励されている漁業関係者の皆様の御尽力により、全国に対する水産物の安定供給の役割を果たすとともに、地域経済や社会の安定・発展を支える重要な役割を担ってきました。しかし、我が国

周辺域における水産資源は総じて低い水準にあり、また、長期化する魚価の低迷などの厳しい情勢を反映して、漁業経営は苦しい状況が続いております。

このため、県では、本県の基幹産業である水産業の再生・新生に向け、生産から流通までを結びつけ、収益性のアップを図る「攻めの農林水産業」の一環として、水産業の振興を図っています。

沿岸漁業については、四年連続で日本一の水揚げを誇る「県の魚」ヒラメをはじめ、サケ、サクラマス、ホタテガイなどの「つくり育てる漁業」やミズダコやマコガレイなどの有用魚種の持続的利用を目指した「資源管理型漁業」を進めています。

また、水産物の流通環境は、景気の低迷に加え、大量の輸入水産物や産地間競争の激化、食

品に対する安全・安心志向の高まりなど、厳しさを増しています。このため、昨年四月農林水産部内に設置した総合販売戦略課において、販路開拓や物産・貿易関係などの販売対策業務を一元化し、マーケティングの実施や知事自らが消費地に赴いてのトップセールスなど、「販売」を重視した施策の推進に、全庁をあげて取り組んでいます。

さらに、消費者が求める安全・安心な水産物生産の基礎となる豊かな水資源を再生・保全するための山・川・海をつなぐ水循環システムの確立や、コンブ・ワカメなど藻場の造成を行う「海の森づくり」にも取り組んでいます。

流通、加工においては、高品質で安全・安心、おいしいという青森ブランドの確立のため、市場や加工場における衛生管理の徹底や食品表示の適正化、トレーサビリティシステムの構築

試験研究機関による新商品・高度加工技術の開発などにも取り組んでいます。また、販売促進を図るため、進展著しいＩＴ技術を活用した産地情報の発信や大消費地と産地の交流会の実施、ホタテガイなどの販売拠点の確保や、イベント、物産展でのＰＲなどを推進しています。さらには、関係機関と連携を図りながら、中国、ＥＵ等への輸出拡大や海外の販路開拓にも取り組んで参ります。

こうした取組みを通じて、水産業に携わる皆様と一体となって、食料供給県としての確固たる地位を維持し、二十一世紀における安全で豊かな生活を求める県民の要請にこたえて参りたいと考えていますので、皆様の御協力、御支援を賜りますようお願いいたします。

皆様の御健勝と御繁栄を心からお祈りいたしまして、新年の挨拶といたします。



農林中央金庫

青森支店長

小川 莊平

新年あけましておめでとうございます。

昨年もいろいろなことがありました。年末に

発表された本県農林水産十大ニュースのトップは「台風被害相次ぐ」でした。青森県の水産物

は他県に類をみないほどに豊かですが、これと相比例して漁獲条件も大変厳しいものがあります。この自然条件の克服に日夜奮闘されている組合員・組合の皆様にあためて敬意を表しますとともに、多くの皆様が罹災されたことにつきまして衷心よりお見舞い申し上げます。

一方、十大ニュースには、「ホタテ貝の生産



青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長

古川 俊

新年あけましておめでとうございます。

平成十七年の新春を迎え、県内の漁業・漁協関係者の皆様に心からお喜びを申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、自然災害

が頻発し、過去に例がない台風十回の上陸、新潟中越地震、強風被害等があり、本県ではそれ

ら被害に対し、一昨年の県条例の発動に続き天災融資法が発動された厳しい年でありました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、国外においても国際情勢の緊張等により緊迫し、国内外ともに厳しい情勢が続いております。

このような中、日本経済は回復基調にあるとはいえないものの、円高、原油高騰により景気の先

額が四年ぶりに百億円を突破」(四位)、「川内町漁協青年部のナマコの資源管理が天皇杯を受賞」(十位)といった嬉しい話題もランクインしています。さかな祭りや、食べる会などのイベントにも多くの消費者・関係者の参加がありました。育てる漁業の具体的な成果が高く評価されたことや、青森の魚介類の良さを消費者に発信していく試みに多くの賛同が得られたことに力づけられる思いです。もちろん、これらは、漁協組合員・職員の皆様の長年の英知と努力の賜物であります。系統信用事業も、浜の金融として皆さんを支えていくことを使命としています。

さて、その信用事業ですが、金融機関はつづれないという神話が崩れて以来、貯金を預かるという仕事の重みが増してきています。財務面、

業務執行面の両面で、要求されるレベルが毎年のように引き上げられてきており、できないのであれば、メガバンクといえども退場を命ぜられるまでになっています。

また、昨年は組織を経営する立場から襟を正させられる事件が相次ぎました。今までどおりという意識のまま不正や隠蔽を行い続け破綻に追い込まれた企業、個人情報管理がずさんだったために多額の賠償金支払を余儀なくされた企業など枚挙にいとまがありません。金融機関も例外ではありません。とくに金融機関の不祥事は、貯金の流出という一大事に直結しますし、経営者の責任の明確化とともに改善策を厳しく求められることとなります。これからは不祥事を未然に防止する等、法令・ルールの遵守(「コンプライアンス」)の強化が貯金者から信頼を

得るための鍵となります。

漁協系統信用事業が、組合員のために、浜の金融を継続していくためには、一刻も早く「一県一信用事業責任体制」を構築し、健全で効率的な事業運営体制を確立することが肝要です。全国では、この体制の確立を本年中に達成することを目標としており、今年は正念場の一年です。

私も農林中央金庫といえども、県内漁業の更なる発展のため最大限のお手伝いをさせていただきます。最後までよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本年の豊漁ならびに県内漁業に携わる皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

行は懸念が強まっております。特に、地域経済は大都市圏に比し地方の回復は遅れている状況にあります。

金融環境については、ペイオフの解禁がいよいよ今年の四月一日からとなり、各金融機関はお客様から選別され、信頼される健全経営の運営が求められております。また、「個人情報保護法」も金融機関等に対し同日から施行されることから、お客様に安心感を与えるためにも厳格なリスク、情報管理体制の強化を図ることが不可欠となっております。

この為本会では、今年の十二月末を目処に、

一県一信用事業責任体制構築を図ることとし、信用事業統合を推進しております。平成十六年度においては、既に五漁協と統合をし、二漁協が新年の一月一日から統合いたしております。残り六漁協は今年四月以降の統合等により、十二月末までに一県一信用事業責任体制構築の運びとなっております。また、ペイオフ解禁に伴う対策として、昨年の十二月六日から貯金が全額保護される「決済用貯金」の創設をし、皆様の負託（安全・安心）にお応えしているところ

でございます。

本会経営改善計画については、平成十三年度策定以降順調に推移いたしておりますが、これは青森県をはじめ、県下の漁業者、系統関係団体等の暖かいご支援によるものと心から感謝を申し上げます。今後についても計画達成に向け役職員一丸となって皆様の負託にこたえるべく努力をいたして参りますので宜しくお願い申し上げます。終わりに、皆様のご健勝を祈念し、平成十七年も相変わらぬご愛顧・ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



青森県漁業信用基金協会

理事長

植村 正 治

新年あけましておめでとうございます。

平成十七年の輝かしい新年を会員の皆様と迎えすることができましたことを大変うれしく思います。

また、日ごろ当協会の業務につきまして、県、市町村、関係機関より格別の御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年もこれまで同様、景気の悪化によ

る企業倒産の急増、雇用問題、長期化している株価や市場金利の低迷等により国民生活は大きく揺れましたが、今年こそは景気の回復を願うものであります。

一方本県水産業（特に中小漁業者）においても、長引く魚価低迷並びに燃油高騰が依然として続いているなかで、昨年八月の台風十五号並びに九月の十八号と二度の台風襲来により漁具、

漁網等関係施設に大きな被害をもたらし、また、十一月には台風並みに発達した低気圧による高波で多くの被害が発生し、特に日本海側の定置網、底建網漁業においては壊滅的な打撃を受けており、ますます厳しい状況となっております。

このような時こそ、漁協並びに漁業者の皆様及び「系統団体」が一丸となり、その役割を發揮することが必要であり、特に平成十三年度から実施した沿岸漁業推進関連資金（県漁連・信漁連・協会三者で創設）は、お陰様で好評をいただいております、今後とも浜の活性化のため、漁業者並びに会員がより利用しやすい公的保証機関として積極的に努力して参りたいと思います

ので皆様の御協力、御支援を賜りますようお願い
いたします。

終りに、皆様のますますの御繁栄と御健勝を
お祈り申し上げ、年頭の御挨拶いたします。



青森県漁業共済組合

組合長理事

三津谷 廣 明

災害から漁業経営を守るため 普遍的加入の実現を

漁協組合員ならびに漁協系統団体の役員の方
様、新年明けましておめでとうございます。

新春にあたり本年の豊漁と安全操業を心から
ご祈念申し上げます。

さて、漁業経営の安定と災害対策として重要
な役割を担う「ぎよさい」は、昭和四十年に本
組合設立以来、今年二月で四十周年を迎えるこ
とができます。

これもひとえに漁業者皆様のご協力のたまも
のと敬意を表するとともに、ご支援いただいた
関係各位に衷心より厚く感謝申し上げます。

この間の加入実績は、平成十五事業年度末で
一一七億円を上回り、その加入率は約四十九％
になるとともに、共済金は七億円を超える多額

の支払を通じて中小漁業者の経営安定に大きく
寄与して参りました。

最近の漁業経営を取巻く情勢は資源の減少、
長引く経済不況による魚価の低迷、加えて台風、
赤潮、魚病、大型クラゲの大量発生被害など誠
に厳しい状況にあります。特に昨年は史上最多
となる台風の上陸によって全国各地で甚大な漁
業被害を受け、漁業経営が一段と困窮の度を深
めている状況にあります。

このような中で、浜の漁業者、漁協系統の皆
様方からの「ぎよさい」に寄せる期待と関心は
益々高まっており、これに応え「ぎよさい」に
課せられた役割を果たすために、これまでにも
増して制度の普及拡大に全力で取り組んでいか
なければならぬと痛感いたしております。

我々ぎよさい団体は、現在「すべての漁業者
の加入と補償力の向上」を目標として全国運動

『新ぎよさい総加入運動21』に懸命に取り組ん
でおりますが、本年は運動の最終年度を迎える
ことから、運動の総仕上げの年として位置付け
てこの運動を強力に展開して参りたいと、決意
を新たにしているところであります。

本年も新時代の漁業と漁村づくりのために
「ぎよさい」がより一層浜の期待に応えるべく、
国、地方公共団体、漁協系統団体等との緊密な
連携のもとで漁業者の皆様と相携えて力強く前
進したいと存じますので、引き続きの皆様の
ご支援をよろしくお願い申し上げます。



平成17年

全国系統団体 新年ごあいさつ



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長

植村 正 治

みなさま、あけましておめでとうございます。厳しい漁業情勢が続く中、みなさまにおかれましては、経営の維持・改善のために懸命のご努力をなさっておられることと存じます。

省みますと、昨年、我が国は多数の大きな災害に見舞われました。史上最多の上陸数となった台風や低気圧等が全国で猛威をふるい、漁業関連施設にも多大な被害を及ぼしました。被害にあわれたみなさまには改めてお見舞い申し上げますとともに、再生産のためのご苦勞をご推察いたします。

永年にわたる漁獲量の減少と、世界の水産物貿易額の四分の一にもなる輸入水産物により、魚価の価格破壊を招いております。WTO・FTAのめざす貿易の自由化から、有限天然資源産業を通して、世界に冠たる魚食文化を築いてきたわが国の漁業者と歴史と伝統のある漁村を守り、二十一世紀の国民食料確保のため総力を結集しなければなりません。

ノリのIQにつきましては、これまで韓国産のみに輸入が認められていましたが、政府は来年から中国産ノリの参入が可能となるノリIQ枠のグローバル化の方針を打ち出しました。しかし、新たに韓国がWTOに提訴、二国間協議を求めるなど予断を許さない状況となっております。私どもは、IQ制度の堅持を今後とも国に要請してまいります。

昨年は異常な石油の高騰により、苦しい漁業経営にさらに追い討ちをかける結果になりました。このような中、政府に対応を要請しつつ、漁業用燃油の安定供給に特段の努力を傾けてきたところであります。

このような環境下で、JFグループの経営もまた、厳しいものになっております。より健全な経営を行ってゆくためには、二〇〇二年に行われました漁協代表者集会において採択されたアクションプログラム、即ち一県一JFや自立JFをめざす合併や一県一信用事業体制、県連・

全国連の組織改革、各事業の見直しとコストの削減等々は避けて通れません。このためには、浜の金融確立のための基金協会との連携、JF合併の足かせとなっている旧債の解消など、二〇〇七年度の漁協合併促進法の期限を念頭に置き、目標を達成するための運動をよりいっそう強固に進めなければなりません。そして、これらを点検し、JFグループの新たな運動方針を定めてゆくため、本年の秋には漁協大会またはそれにかわる大会を開催する予定にしております。

昨年発表されました第十一次漁業センサスによりますと、漁業就業者数は二十三万九千人と五年前よりさらに減少しております。また、政府は、水産物自給率を六十五パーセントまで引き上げる計画を打ち出しましたが、現在のところ効果が表れているとは言えない状況です。

こういった厳しい状況の中にあつて明い話題があります。自民党が水産部会の復活を決めたことです。一月十八日の自民党大会で正式決定となりますが、数年前に省庁再編が実施され、水産部会は独立していたものが農林水産部会に併合されました。それが昨年、自民党の若手議員の先生方が厳しい浜の実状打開の為、党中央本部に申し入れ実現となりました。

水産部会が再び独立して復活することは、自民党が水産に本気になってくれることの大きな証左であります。新年早々おめでたい話題だと皆様とともに喜びをする次第です。

魚食文化は、私たち日本人の健康と長寿をささえ、世界中から注目されております。漁業は

国民食料を支える重要な産業です。加えて漁業・漁村は環境保全、人命救助、国境監視等々の多面的機能の役割を果たしています。基本は漁村（ハマ）です。漁村は日本人の心のふる里と言えましょう。

世の中の景気は回復基調にあると言われてお

ります。今年こそは景気が好調に推移し、水産業界も明るい話題が出てくることを祈念して、年頭の挨拶といたします。



全国共済水産業協同組合連合会

代表理事会長

佐々木 護

目標達成に向け総力結集を

輝かしい平成十七年の初春を迎え、全国津々浦々、浜の皆様は新年のお慶びを申し上げます。先ず始めに昨年発生いたしました台風や大雨、新潟県中越地震といった自然災害により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、わが国経済は世界経済が回復するなかで、景気が上向くものと期待されているものの、為替レートなどの動向には留意する必要があるうかと思えます。また、民間保険業界にあっては依然として続く超低金利情勢や契約実績の低迷のもと、合併・業務提携等が急速に進展し、

激しい競争が展開されております。

また、JF共済の事業基盤であります漁業・漁村においては、漁業生産量の減少、魚価の低迷等に加えて、漁業就業者の減少と高齢化の進行にともない、漁業・漁協経営はさらに厳しさ増大の今日であります。これに対処するため、JFグループは全国漁協代表者集会において決定した「JFグループの事業・組織・経営改革に向けた運動方針」にもとづき、「アクション・プログラム」を策定し、合併の完遂と事業改革に取り組んでいるところであります。

このような事業環境のもと、JF共済（JF共水連）においては、事業量伸長の停滞、運用利回りの低下等、その事業運営は非常に厳しい状況にあります。このため、十六年度は「RE

START（リスタート）―JF共済三か年計画」の最終年度として、次期三か年計画への足がかりとなる重要な年度であり、また、「漁協元受二十周年」の節目にあたる意義深い年度でもあります。そこで「主役は浜である」との認識のもと、残る僅かな期間ではありますが「JF共済元受二十周年記念キャンペーン」を強力に展開し、所期の目標達成に向け、総力結集の歩みが続けて参りたく存じます。そして、十七年度は新三か年計画をスタートし、JF共済を安心してご利用いただくため、さらに安定した資金運用やリスク管理の向上に向けた基盤整備を着実に進め、経営の健全性の確保と事業基盤の強化に邁進する所存であります。

どうか本年におきまして、JF共済につきまして引き続き皆様の特段のご高配を賜りますよう、切にお願いを申し上げます。最後に、わが国漁業の明るい未来とJFグループがますます発展することを祈念いたしますとともに、皆様方のますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。



謹賀新年



青森県漁業協同組合連合会

代表理事	植村 正治
副会長	西崎 義三
専務理事	後藤 亮丞
常務理事	久保澤 正
理事	木村 亀治
〃	手間本 政信
〃	柳谷 一
〃	中村 岩太郎
〃	熊谷 拓治
〃	泉 一郎
代表監事	立石 政男
監事	角田 順一
〃	赤石 憲二
ほか職員一同 (順不同)	

青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長 古川 俊

ほか役職員一同

青森県漁業信用基金協会

理事長 植村 正治

ほか役職員一同

青森県漁船保険組合

組合長理事 福島 哲男

ほか役職員一同

全国共済水産業協同組合連合会青森県事務所

推進本部長 植村 正治

ほか役職員一同

青森県漁業共済組合

組合長理事 三津谷 廣明

ほか役職員一同

(社)青森県漁港漁場協会

副会長 植村 正治

〃 逢坂 雄一

〃 越善 靖夫

ほか役職員一同



謹 賀 新 年



(社)青森県漁協経営安定対策協会	会 長	植村正治 ほか役員一同
(社)青森県水産振興会	会 長	植村正治 ほか役員一同
(社)青森県ほたて漁業振興基金	理 事 長	植村正治 ほか役員一同
(財)青森県沿岸漁業振興協会	理 事 長	植村正治 ほか役員一同
むつ湾漁業振興会	会 長	三津谷廣明 ほか役員一同
青森県漁業経営安定対策本部	本 部 長	植村正治 ほか役員一同
青森県さけます増殖振興協会	会 長	植村正治 ほか役員一同
青森県小型いか釣漁業協議会	会 長	植村正治 ほか役員一同
青森県漁業環境保全振興協会	会 長	植村正治 ほか役員一同
青森県漁船海難防止・水難救済会	会 長	植村正治 ほか役員一同
青森県漁村活性化対策協議会	会 長	植村正治 ほか役員一同
青森県定置漁業協会	会 長	西崎義三 ほか役員一同
青森県東部海域漁業協議会	会 長	赤石憲二 ほか役員一同
青森県水産業改良普及会	会 長	後藤巧 ほか役員一同
青森県漁協専務参事会	会 長	金野英幸 ほか役員一同
漁船海難遺児を励ます青森県地方協議会	会 長	植村正治 ほか役員一同
むつ湾漁業青色申告会連合会	会 長	前田昌夫 ほか役員一同
青森県さけ流通振興協会	会 長 理 事	植村正治 ほか役員一同
青森県ほたて流通振興協会	会 長 理 事	植村正治 ほか役員一同
青森県漁業経営指導協会	会 長	植村正治 ほか役員一同
青森県漁協女性組織協議会	会 長	細川慶子 ほか役員一同

第13回活力と魅力溢れる漁村づくり青森県大会 「JF（漁協）改革推進大会」開催

青森県漁村活性化対策協議会・（社）青森県漁協経営安定対策協会・青森県漁業経営安定対策本部の3団体主催による第13回活力と魅力溢れる漁村づくり青森県大会「JF（漁協）改革推進大会」が、11月1日「ぱ・る・るプラザ青森」において、県下の漁業関係者約600人が参加し開催された。

冒頭、植村会長は「資源の減少による漁獲の低下、或いは魚価安等極めて厳しい状況の下、海を相手にする我々ハマの者として、“海は銀行、魚は貯金”という信念で資源の適切な管理による回復を押し進めて参らなければならない。青森県から“漁業は、地方の時代の一産業”として全国に発信し、21世紀の青森県のために、皆さんと共にがんばろう」と挨拶を述べた。

また、三村県知事、山内県議会議長は「平成10年3月に漁協系統団体が目標として策定した平成19年度末までに県内15の自立漁協を構築するためには、合併推進協議会等の設置が急がれる。県としても、水産業を巡る厳しい環境を踏まえ、足腰の強い漁協組織体制の確立を目指し、県漁連等系統団体並びに市町村等との連携を図りながら、漁協合併の実現に向け取り組まなければならない。我が国有数の食料供給県として、日本と世界に貢献してきた本県の農林水産業を支えるため、使命感と誇りをもって、引き続き御尽力いただきたい」とそれぞれ挨拶を述べた。

その後、（社）青森県漁協経営安定対策協会の葛西常務から「県下56漁協のうち、31漁協は繰越欠損金があり、全体の事業利益は赤字の状態である。もはや事業収益だけで漁協経営はできない状況にあり、1日も早く自立できる漁協を構築するため、漁協合併を実現してほしい」と危機感を募らせた。

基調講演では、（株）水土舎の乾社長が「漁協の最大の課題は、産地価格を引き上げ、流通コストを下げ、漁家の収入を上げることである。漁協経営の悪化により、職員を減らし事業を縮小することは経営の伸び悩みにつながってしまう。現段階ではまだ建て直しが可能だろうと思うので、漁協の組織強化、合併の促進、これは単に負債を整理する事ではなく、新しい出発点を築き、漁家の収入を上げるための手段である」と述べた。



主催者挨拶を述べる植村会長



来賓挨拶を述べる三村県知事



来賓挨拶を述べる山内県議会議長



講演する乾社長



講演する加瀬教授

また、東京大学社会科学研究所の加瀬教授は「国の政策や予算、漁場の調整など、漁業者が明確な理念を持って議論することで現実的な対応が可能になる。漁協の合併問題についても、行政等から強いられた課題としてではなく、地域の構想を描き経営力のある漁協を造っていく観点で、議論と実践により、成果を上げていただきたい」と訴えた。

続いて、下北水産振興会の川端会長及び西北水産振興会の山本会長から「組合員とその家族の生活を安定させるため、組織拡大を図り販売戦略を成功させることがトップの使命と考えている。将来に亘って漁業者の負託に応え得るよう全事業の強化と、経営基盤の強固な漁協づくりを図るため、認定漁協になり得る広域合併の実現に決断が必要である」と広域合併の必要性を訴えた。

大会は

- 1) 資源管理型漁業の推進、資源回復計画の実行及び流通の動向に対応した販売対策により、漁業所得の向上を目指す運動を展開する。
- 2) 漁村・漁場の環境保全を柱とした漁業の活性化を図ると共に、漁村の多面的機能を高める運動を推進する。
- 3) 組合員の負託に応え、地域や社会に存在感のあるJF（漁協）を構築するため、真に自立可能なJF組織の再編（合併）を実行する。

以上を決議し、閉会した。



会場風景

平成十六年度 漁協運動功労者表彰式



J F 泊代表理事組合長
(J F 青森漁連監事)

赤 石 憲 二

平成16年度（第19回）漁協運動功労者表彰式が、去る11月19日、東京・虎ノ門パストラルにおいて行われた。

はじめに、植村正治 J F 全漁連会長が「漁業・漁村は食料産業としてだけでなく、その多面的機能の役割を果たしている。漁協運動功労者が築き上げた経験と実績を繁栄させ、そして、浜の声を事業の運用に生かして漁業・漁村の活性化につなげたい」と主催者挨拶を述べ、来賓を代表して常田享詳農林水産副大臣が祝辞を述べた。

続いて、植村会長から受賞者一人ひとりに功労章が授与され、功労者を代表して沖山邦男 J F 三宅島代表理事組合長が謝辞を述べた。

この功労章は、漁協運動のリーダーとして長年活動した功績を顕彰するため、昭和61年に制定され、今年度本県からは、赤石憲二 J F 泊漁協組合長（J F 青森漁連監事）が受賞されました。

功 績 の 内 容

昭和二十五年、泊漁業協同組合員として小型漁船漁業に従事しながら組合事業に積極的に参画し、昭和五十六年六月理事に就任、平成八年六月からは代表理事組合長として優れた指導力と統率力を遺憾なく発揮し、漁業生産性の向上と組合事業の更なる発展に貢献している。また、青森県漁業協同組合連合会の監事をはじめ青森県漁港漁場協会、青森県水産振興会の理事として青森県漁業の振興発展に努めている。

ロシア船籍貨物船によるほたて養殖施設漁業被害

11月26日、ロシア船籍貨物船「AFANASIY BOGATYREV（アフナシー ボガティレフ）」は、青森市堤埠頭で木材を下ろし、石川県七尾港へ向け青森港を出港したが、同日から発達した低気圧の暴風・波浪を避けるため、青森港沖に錨泊した。

27日未明には、青森市奥内沖の陸から約1900㍍の区画漁業権内まで侵入し、区画漁業権内に錨泊。その後、暴風のため貨物船は流され、油川沖の区画漁業権内まで走錨し、青森市漁協組合員13名が所有するほたて養殖施設57ヶ統、油目簗4個に被害を与えた。

同日朝9時頃には、油川沖でアンカーチェーンなどにたくさんの養殖施設が絡んだ状態で航行不能となった。その後、船主側の保険会社から青森市漁協に漁具の撤去要請があり、12月2日、3日の両日、青森市漁協油川支所の組合員が養殖施設の撤去作業を行い、3日昼頃、貨物船は石川県に向けて出港した。

被害にあったほたて養殖施設には、今年夏、採苗器でほたて稚貝を採取し、分散作業を終えた稚貝が収容されており、平成17年4月以降販売予定であった。



漁具が絡み航行不能となった貨物船



漁具を撤去する青森市漁協組合員

加害船名	AFANASIY BOGATYREV (アフナシー ボガティレフ)
船 籍	ロシア
総トン数	3,736ト
乗 組 員	ロシア人 20名

貨物船による陸奥湾の漁業被害発生状況（平成元年以降）

被害発生日	発生場所	被害施設数	加害船籍
H 2. 11. 20	むつ市田名部沖	ほたて養殖施設 8ヶ統	日本
3. 9. 20	むつ市沖	ほたて養殖施設 3ヶ統	日本
3. 9. 28	青森市奥内・久栗坂沖、 平内町茂浦沖、 川内町沖、 脇野沢村沖	ほたて養殖施設 112ヶ統	ロシア、 パナマ、 韓国、 日本
4. 1. 20	平館村沖	ほたて養殖施設 3ヶ統	パナマ
4. 9. 12	青森市後潟沖	ほたて養殖施設 21ヶ統	ロシア
5. 1. 18	蓬田村沖	ほたて養殖施設 3ヶ統	ロシア
5. 3. 14	川内町沖	ほたて養殖施設 7ヶ統	中国
6. 1. 2	川内町沖	ほたて養殖施設 3ヶ統	パナマ
6. 2. 22	青森市野内沖	ほたて養殖施設 78ヶ統	パナマ
8. 10. 27	脇野沢村沖	ほたて養殖施設 3ヶ統	ベトナム
8. 12. 25	青森市奥内沖	底建網 1ヶ統	リベリア
9. 3. 30	青森市野内沖	ほたて養殖施設 15ヶ統	中国
9. 10. 10	川内町沖	ほたて養殖施設 3ヶ統	セントビンセント
10. 10. 18	青森市野内沖	ほたて養殖施設 12ヶ統	ロシア
11. 12. 14	平内町東田沢沖	ほたて養殖施設 16ヶ統	不明
12. 4. 11	青森市野内沖	ほたて養殖施設 5ヶ統	韓国
13. 1. 12	青森市久栗坂沖	ほたて養殖施設 15ヶ統	韓国
13. 2. 18	平館村沖	ほたて養殖施設 1ヶ統	インドネシア
13. 12. 30	青森市野内沖	ほたて養殖施設 2ヶ統	バルバドス
14. 1. 21	青森市茂浦沖	ほたて養殖施設 1ヶ統	北朝鮮
14. 12. 25	青森市油川沖	ほたて養殖施設 32ヶ統	パナマ
15. 5. 2	青森市造道沖	ほや養殖施設 2ヶ統	フィリピン
15. 8. 9	平内町小湊沖	ほたて養殖施設 2ヶ統	日本
16. 11. 27	青森市油川沖	ほたて養殖施設 57ヶ統	ロシア

平成16年度青森県漁協合併推進状況

鯺ヶ沢・深浦・岩崎地区 8 漁協合併研究会（平成16年 4 月30日設立）

参加漁協：大間越・岩崎村・鱸作・深浦・風合瀬・大戸瀬・赤石水産・鯺ヶ沢漁協

年月日	事 項	場 所
H16. 4. 30	設立総会	鯺ヶ沢町
6. 21	第1回専門部会	〃
6. 29	第1回研究会	〃

今別町・三■村地区 4 漁協合併研究会（平成16年10月 8 日設立）

参加漁協：今別町西部・今別町東部・竜飛・三■村漁協

年月日	事 項	場 所
H16. 9. 9	合併担当国会議	今別町
10. 8	設立総会	三■村
11. 11	担当国会議	〃
11. 24	第1回専門部会	〃
11. 30	第1回合併研究会	〃

平館村・蟹田町 2 漁協合併研究会（平成16年10月27日設立）

参加漁協：平館村・蟹田町漁協

年月日	事 項	場 所
10. 19～21	平館村・蟹田町漁協の合併に係る財務確認調査	平館村・蟹田町
10. 27	平館村・蟹田町・■田村 3 漁協合併研究会解散	蟹田町
10. 27	平館村・蟹田町 2 漁協合併研究会設立総会	〃
11. 11	第1回専門部会	〃
11. 30	第1回研究会	〃
12. 21	第2回専門部会	〃
12. 27	第2回研究会	〃

青森地区漁協合併推進協議会（平成13年12月27日設立）

参加漁協：青森市・後潟漁協

年月日	事 項	場 所
H16. 4. 27	第1回事務局会議	青森市
6. 22	第2回事務局会議	〃
7. 16	第1回小委員会	〃

むつ市・川内町・脇野沢村 3 漁協合併研究会（平成16年 9 月27日設立）

参加漁協：むつ市・川内町・脇野沢村漁協

年月日	事 項	場 所
H16. 7. 5	合併担当国会議	むつ市
7. 30	〃	〃
8. 23	〃	〃
9. 27	むつ市・川内町・脇野沢村 3 漁協合併研究会設立総会	〃
11. 12	合併事務担当国会議	〃
11. 30	第1回専門部会	〃
11. 30	第1回研究会	〃

その他の地区

年月日	事 項	場 所
H16. 5. 27	下風呂・易国間・蛇浦漁協合併推進巡回	風間浦村
10. 12	野辺地町・横浜町漁協合併推進担当国会議	野辺地町
11. 11	泊・六ヶ所村海水漁協合併推進担当国会議	六ヶ所村

第32回「海をきれいにする運動」 優秀作品決定

青森県漁業協同組合連合会とむつ湾漁業振興会共催による第32回「海をきれいにする運動」は、むつ湾関係者のご協力により相当の成果を上げて終了致しました。

この運動は、「むつ湾の公害絶滅・漁場環境を図り、資源保護自然環境保全に努め、むつ湾の海をより美しいものとする」ことを目的に、今年も7月20日から10月31日まで実施され、各漁協の協力のもと海岸清掃や海底清掃が行われました。

また、この運動の一環としてむつ湾沿岸に位置する小・中学校の生徒を対象に海をテーマとした作品募集をしたところ、図画154点、ポスター196点、作文57点、標語238点の合計645点の応募があり、専門審査員による厳正な審査により、優秀作品が決定され、表彰式が去る12月25日(土)青森県水産ビルにおいて行われました。

なお、図画の部の優秀作品(小学校6点)については、全漁連主催の第27回「全国海の子絵画展」へ出品されます。

本運動にご協力をいただきました関係者並びに学校関係者に対して厚くお礼申し上げます。来年度も引き続き本運動を展開して参りますので、何卒ご協力をいただきますようお願い致します。

尚、入賞された作品については、青森県水産ビル2階ギャラリーへ展示致しておりますので、ご来館の際は是非ご覧下さるようお願い申し上げます。



作品審査会風景

第32回「海をきれいにする運動」作品審査結果

《図画の部》

[小学校]

賞名	学校名	学年	氏名	備考
特選	久栗坂	2年	蝦名 ククリ	第27回全国海の子絵画展出品
準特選	土屋	1年	奥田 宥羽	〃
〃	久栗坂	6年	阿保 博隆	〃
佳作	〃	2年	折館 栞奈	〃
〃	〃	4年	阿保 雄也	〃
〃	西田沢	2年	溝江 敢太	第27回全国海の子絵画展出品
〃	〃	〃	市川 明歩	〃
〃	第一田名部	〃	小島 有玄	第27回全国海の子絵画展出品
〃	平館	1年	高畑 利生	〃
〃	浦田	〃	福田 純也	〃
〃	土屋	〃	浜中 桂佑	〃
〃	〃	〃	加藤 拓哉	〃
〃	油川	3年	小村 拓翔	〃
〃	宿野部	5年	橋本 実季	〃
〃	馬門	6年	柴田 貴紀	〃

第27回全国海の子絵画展出品 (小学校) 6点



《ポスターの部》

[小学校]

賞名	学校名	学年	氏名
特選	油川	6年	田中 真美
準特選	平館	1年	木村 美紅
〃	小湊	6年	佐々木 勇輔
佳作	油川	1年	田中 拓斗
〃	〃	3年	蝦名 祐樹
〃	〃	4年	後藤 美萌
〃	〃	5年	福井 智子
〃	〃	〃	三上 紗緒里
〃	浅所	4年	寺嶋 和也
〃	三	5年	浜谷 祥史
〃	〃	6年	飯田 遥
〃	小湊	5年	渡邊 由子
〃	城ヶ沢	〃	齊藤 絵里奈
〃	奥内	6年	安部 真奈
〃	〃	〃	土岐 のどか
〃	〃	〃	原田 里美
〃	第二田名部	〃	高橋 夏子

[中学校]

賞名	学校名	学年	氏名
特選	角違	3年	齊藤 鮎美
準特選	今別	2年	上 山 雅史
〃	三	〃	蠣 ひとみ
佳作	今別	〃	東 亮汰
〃	三	3年	伊藤 萌未

《作文の部》

賞名	題名	学校名	学年	氏名
特選	海をいじめちゃダメ!	大湊中	2年	眞部 瑞穂
準特選	拾う人でも捨てる人	横浜中	〃	目黒 絵夢
〃	いつまでもきれいな海に	横浜小	6年	杉山 あてな
佳作	私たちの海をきれいにするために	大湊中	2年	鎌田 みずほ
〃	海が海として生きるために	横浜中	3年	澤谷 惇史
〃	海が海でいられるように	大湊中	2年	新松 啓恵
〃	海を保つために	大湊中	〃	大西 里美
〃	ぼくができること	第一田名部小	6年	畑中 潤

《標語の部》

賞名	題名	学校名	学年	氏名
特選	言ってみよう 自信をもって「海きれい!」	大湊中	2年	小館 菜摘
準特選	残そうよ 未来にきれいな 砂浜を	造道小	5年	滝本 早
〃	守ろうよ 海は世界の お友達	第二川内小	6年	丸谷 美樹
佳作	大切に なごみの海は 宝物	大湊中	1年	向平 理沙
〃	捨てません 魚を守る 気持ちから	西田沢小	5年	藤田 走波
〃	ごみ一つ 拾う心が 地球をすくう	馬門小	6年	戸沢 仁美
〃	いつまでも 海の健康 守りたい	大湊小	4年	楡木 清功
〃	青い海 きれいにしよう 育てよう	蛸崎小	3年	大室 海波
〃	海の青さ その色みんなで 守ろうよ	第二田名部小	6年	長倉 美紀
〃	青い海 顔を上げたら 青い空	造道小	5年	菅原 奈月

受賞された皆さん
おめでとうございます

第三十二回「海をきれいにする運動」
作文の部 特 選

『海をいじめちゃダメ!』

むつ市立大湊中学校

二年 眞 部 瑞 穂

四月上旬。私の家から安渡湾を見ると、大勢の人の姿が見える。年に二日間行われる汐干狩。汐がひいて、たくさんのアサリが取れるこの時期に、私はある事を思う。

「人がたくさん来るのはいけど、その分ゴミがたくさんでるのではないか。」

日本全国では、たくさん自然をメインとした行事が行われている。海や山の看板には、いつも『ゴミは各自でお持ち帰り下さい。』と書いてある。しかし、人々は面倒くさい、じゃまだから、といって捨てていく。そのため、海の中には、缶やスナック菓子のから、タバコなどが沈んでいる。その中に入るのが嫌で、私は海に行ったことがない。平気で入っている人は、どういう気持ちなのか知れたかった。

私はある日、友人に、海に入った時にゴミが沈んでいたら、どう思つか尋ねてみた。すると、

「私もゴミを捨ててるから平気だよ。」
と、軽い表情で話した。私はその時、友人の顔をなぐりたいた気持ちになった。どうしてなのか。

本当はきれいな海を、みんなが楽しめる海なのに。人々がゴミを捨てて、汚れているのだから。

私が小学校の高学年の頃、海岸沿いの道路を友達と話をしながら歩いてた。すると、海に向ってゴミを投げている、高校生ぐらいの二、三人がいた。私と友達は、勇気を出して、

「海にゴミを投げたり捨てたりしてはいけません。」

と言った。

すると、高校生は、私達をにらみ、その場を去った。きつと、うるせえとか別にお前らに関係ない、と言おうとしたのだろう。しかし、私達がまだ子供だと思い、にらんだだけなんだ、と私は思った。それから、人に注意することに恐怖感を持った。それ以来、海に物を捨てている人を見ても、注意することはできなかった。

しかし、今の私は違う。海に物を投げたりすることは、世間一般で言われている『いじめ』と、同じようなことではないのか。もし、海が人間だしたら、人にゴミを投げつけてケガをさせているのと同じだ。私はそう思う。だから、物を捨てている人に、

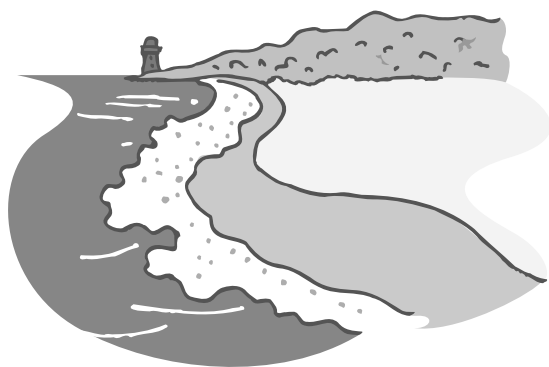
「海をいじめないで。」

と呼びかけたい。捨ててない人にも呼びかければ、きつと海に対してのいじめはなくなるはずだ。汚い海を見るより、きれいで魚がたくさん

暮らしている方が、だれだってさわやかな気持ちになるはずである。

今、この日から、私は海を大切にしていこうという決意をした。私一人だけ気をつけてもダメな事だ。人間全員が気をつけていけば、海は今までにないくらいの輝きを見せてくれる。私は、そうなる日が必ずくると信じている。絶対、魚や貝も笑顔を見せてくれる海。人が笑顔になる海。こういう海を、みんなで目指していこうよ。協力していけば、きつと結果になるから。

この呼びかけをして、一人、二人、三人と私の決意と同じようになってくれると願っている。それは、まるで、汽車が一つ一つつながっていくように。



浜の情報・話題

全国漁業協同組合学校 平成17年度（66期）学生募集

JFを担う若きリーダーを育む

1、募集人数 五十人（男女共学）
2、入学資格

入学目的を持ち、漁業協同組合系統団体の推薦を得て、次のいずれかに該当し、本校の行う選考に合格した者。

（1）一カ年以上漁業に従事し、または漁業協同組合系統団体に勤務中の者。

（2）高等学校卒業者（平成十七年三月卒業見込者を含む）または、これらと同等以上の学力を有すると認められる者。

3、応募手続

応募者は、提出書類（入学願書、成績証明書または調査書、健康診断書、推薦書）に入学選考料三万円（郵便普通為替証書）を添付し、応募者の出身地域の漁業協同組合連合会長宛に平成十七年一月十五日（土）までに提出下さい。

〔お問合せ先〕

全国漁業協同組合学校

TEL 0471-44-8125～6

〒277-0854

千葉県柏市豊町一丁目四番五号

青森県漁業協同組合連合会 指導課

TEL 017-722-4218

〒030-0803

青森市安方一丁目一番三十二号

作業用救命衣（小型船舶用救命胴衣兼用）の紹介



NS-ウクンダA8型
（国土交通省型式承認
番号 第4576号）

表裏生地共に
メッシュ生地
なのでベトつ
かず快適な着
心地



NS-ウクンダA9型
（国土交通省型式承認
番号 第4577号）

表生地に防汚
性に優れたウ
レタンコーティ
ング布を使用

漁業者の皆様、海上作業の際には是非ウクンダA8・A9型を着用しましょう！

ご注文・お問合せは 青森県漁連 購買課へ 電話017（722）4214

主な水産に関する動き（10月～12月）

10月	事 項	場 所
1 日（金）	海面養殖高度化事業地域推進協議会	青森市
3 日（日）	第24回全国豊かな海づくり大会	香川県
7 日（木）	平成16年度日本海地区漁業者協議会	青森市
8 日（金）	今別町・三厩村地区4漁協合併研究会設立総会	三厩村
8 日（金）	平成16年度販売担当課長会議	青森市
11 日（月）	小型いか釣の安全操業を確保する青森県漁業者大会	三沢市
12 日（火）	平成16年度太平洋地区漁業者協議会	むつ市
12 日（火）	青森県栽培漁業推進協議会	青森市
14 日（木）～15 日（金）	全漁連漁協合併漁協職員実務研修会	北海道
18 日（月）～21 日（木）	秋季ホタテガイ実態調査	むつ湾
20 日（水）	さけ生産計画及び海産親魚供給に係る現地協議会（太平洋地区）	東通村
21 日（木）	2004 漁民の森青森セミナー	青森市
22 日（金）	青森県ほたて貝残渣処理対策協議会設立総会	青森市
22 日（金）	さけ生産計画及び海産親魚供給に係る現地協議会（日本海地区）	深浦町
27 日（水）	平舘村・蟹田町漁協合併研究会	蟹田町
30 日（土）～31 日（日）	青森県農林水産祭	青森市
11月	事 項	場 所
1 日（月）	第13回活力と魅力溢れる漁村づくり青森県大会 「JF漁協改革推進大会」	青森市
2 日（火）	ほたて・なまこ生産流通組合長会議	青森市
4 日（木）	青森県東部海域安全操業に係る協議会	青森市
5 日（金）	指定漁業との漁業調整問題に係る懇談会	東京都
9 日（火）～10 日（水）	連合会決算税務研修会	東京都
16 日（火）～12月1 日（水）	青森の物産と日本のうまいもの伝統工芸展	台湾
19 日（金）	平成16年度漁協運動功労者表彰式	東京都
22 日（月）	平成16年度青森県東部海域漁業協議会通常総会	青森市
22 日（月）	平成16年度むつ湾地区漁業者協議会	青森市
30 日（火）	むつ市・川内町・脇野沢村3漁協合併研究会	むつ市
30 日（火）	今別町・三厩村地区4漁協合併研究会	三厩村
30 日（火）	平舘村・蟹田町漁協合併研究会	蟹田町
12月	事 項	場 所
1 日（水）	全国漁連・信漁連・漁済組合長合同会議	東京都
1 日（水）	むつ湾ほたて漁業に係る意見交換会	青森市
6 日（月）	第32回「海をきれいにする運動」作品審査会	青森市
14 日（火）	漁協における業務報告書作成等に係る説明会	青森市
16 日（木）	秋季ホタテガイ実態調査報告会	青森市
25 日（土）	第32回「海をきれいにする運動」表彰式	青森市
27 日（月）	平舘村・蟹田町漁協合併研究会	蟹田町

県内漁協職員紹介

脇野沢村漁協



脇野沢村は、下北半島の南西部に位置し、西は平舘海峡、南は陸奥湾に面し、面積58.59km²、人口は2,512人。

天然記念物「北限のニホンザル」の生息地として、また、「イノシシ鍋」「イワシ焼干し」そして、「タラの里」として有名です。タラ漁は、平成元年に1300トの水揚げをピークに、その後減少し、近年は11トまで落ち込んでいます。

今年こそは豊漁をと思い、先日、タラ底建網を仕掛ける場所を競い合う伝統の「場取り」（表紙写真）が行われました。

今回は、これからタラやヒラメ、カレイなどの水揚げで忙しくなる「脇野沢村漁協」の皆さんをご紹介します。

1. 氏 名	2. 担当業務
3. 趣味・特技	4. 自己PR



1. 千船五郎
2. 総務課長
3. 読書（スロット攻略本）実践効果得られず
4. 今年の目標、禁煙と決めたが今だ達成できず、逆にニコチンのプレッシャーに負けそうである。弱すぎる!!



1. 蛸島康之
2. 業務課長
3. 盆栽 つり
4. 特になし



1. 川崎絹子
2. 業務課長補佐
3. 読書（?）
4. 毎日、自分のいいように考えて行動しています。気持ちは30才ぐらいですが、体がついていきません。でもバレー大好き中年おばさんです。



1. 川崎正人
2. 業務課係長
3. 競馬、スポーツ観戦
4. 特になし



1. 千船幸喜
2. 総務課係長
3. 山、海、酒
4. 1日1日のしく



1. 川崎いさ子
2. 総務課経理係長
3. ワンちゃんと散歩すること
4. なにごとにもチャレンジの心がまえで。



1. 佐々木洋子
2. 物産課長補佐
3. 特になし
4. 毎日を地道にがんばっています。